



手拍子をとって歌い出した女性の手を、男性職員が握った（9月16日、石巻市の仁風園で）

# むきだしの手を握る

## いま 命をめぐって

仁風園②

骨ばった手を差し出され、握り返す。すると、こちらの手を両手で包みこむように感触を確かめてくる。

取材で特別養護老人ホーム「仁風園」を訪ねたたびに、今野あさ子さん（90）はそうや

って歓待の意を示してくれました。認知症のある今野さんは私を自宅の客人だと思っていて、「畑の野菜を食へさせるから、今度は子どもと一緒にございんよ（来なさいよ）」と真顔で繰り返し言うのだった。

手は双方向につながる回路だ。言葉にしなくても、うれしさや不安な気分が相手に届く。しばらく触れていると、少しひんやりとした今野さんの手肌が温かくなり、こちら

の体温に近づくのを感じる。

人が集まった祝いの行事でこんな場面があった。気分が高揚したらしく、入所者の女性（97）が手拍子をとって歌い出した。厳かな雰囲気水を差しかねないと思った瞬間、介護員の男性（46）がすっと近寄り、腰をかがめて手を握った。それで女性は落ち着いたようだった。

楽しむ気持ちを否定することなく、安心感を与える。場の空気も壊さない。使われたのは手だけ。見事な対応だった。

＊

新型コロナウイルスの時代は、自分以外の全ての人を感染リスクと見なすことを強いる。

マスクに手袋、フェースシールド、ガウン。入所者の命を守るためとはいえ、二重三重の壁に職員たちは困惑している。そもそも、ここにいる大半の人はコロナの流行を説明しても理解できない。「もし自分だったら、こんなフル装備で近づいてくる相手を警戒するだろうな」と思いながら、体を寄せ、介助にあたる。



隣を歩き、さりげなく背中を支える（9月16日）



「熱いよ」と言いながら女性職員はサツマイモをちぎって食へさせた（10月4日）

パンデミックを経てはつきりしたことがある。むきだしの手は他者への無条件の信頼だ。肌と肌が触れた瞬間にそのことが伝わるから、不安も和らぐのだろう。